

資産運用の基本ルール

リタイア世代にとって、資産運用は手元のお金を守り、増やすための有効な方法です。しかし、とりあえず始めてみるというやり方は考えもの。資産運用を始めるなら、知っておきたい基礎知識があります。60代から始める資産運用の基本についてまとめました。

お金を目的別に 分けていますか？

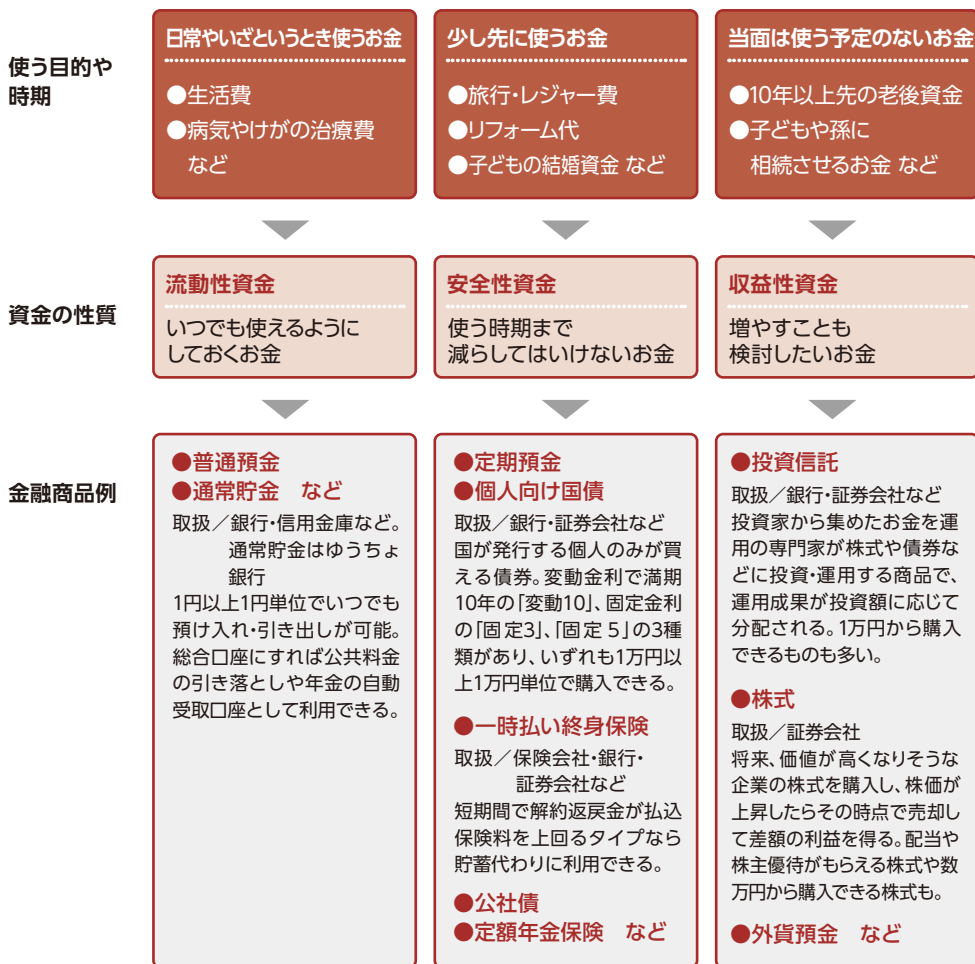
「退職金としてまとまったお金を受け取ったので、少しでも増やしたい」人もいれば、「リタイア後の趣味と実益を兼ねてやってみたい」人など、退職を機に資産運用を始めようと思う人は多いようです。実際、退職後にただ貯蓄を取り崩した場合と、少しでもお金を増やしながら貯蓄を取り崩した場合では、資産の減り方は大きく変わります。リタイア世代の人にとって、適切な資産運用ができるかどうかは、生活の余裕度に直結する、興味深いテーマといえるでしょう。

金が入ると金融機関から営業を受けることも増えるので、興味の有無にかかわらず、60代の人には、資産運用の基礎知識をぜひ持つておいてほしいものです。たとえば、初めての運用で勧められるまま、株式や投資信託を数百万円購入するのはよくあるパターンですが、あまりおすすめできません。資産運用とは、いきなり投資することではなく、自分の資産全体を色分けすることから始まります。手持ちのお金で、使う目的や使う時期に応じて、「日常やいざというとき使うお金」、「少し先にお金」、「当面は使う予定のないお金」の3つのグループに分け、それぞれ適切な商品を利用することが資産運用なのです。

「日常やいざというとき使うお金」には、当面の生活費や、病気やけがの治療費にとっておきたいお金が該当します。当面の生活費とは半年から1年分、たとえば生活費が25万円の家計なら、150万円から300万円程度と考えます。併せて、急な病気やけがなどのアクシデントに備えるお金として50万円から100万円を目安に考えてください。基本的にここに入るものは、必要になったらすぐに使えるようにしておくことがポイントです。

「少し先にお金」には、数年以内に予定しているイベントの費用などが含まれます。たとえば、来年行くつもりで海外旅行の費用や、3年後くらいにリフォームを考えているなら、その費用

■ お金の色分けと商品の例



などが該当します。子どもの結婚もそろそろという人なら、その援助資金もここに含めます。このグループのお金は安全性資金と呼ばれ、使う時期まで減

らさないような運用を心掛けましょう。**「当面は使う予定のないお金」**には、10年以上先の生活費やイベントのお金が入ります。また、子どもや孫に遺すつ

もりのお金もここに含まれます。このグループは余裕のあるお金なので、増やすことを考えて運用できます。

一方で金融商品にも、流動性、安全性、収益性といった性質があります。お金の預け先を考えるなら、「日常やいざというとき使うお金」には流動性の高い金融商品、「少し先に使うお金」には安全性の高い金融商品、「当面は使う予定のないお金」には収益性の高い金融商品が向いています。お金の目的や性質によって、金融商品を使い分けるようにしましょう。

上の表に、3つの性質のお金には、それぞれどんな金融商品が向いているかを具体的に示したので、参考にしてください。

ところで、もしも世の中に、3つの性質をすべて併せ持つ金融商品があったら、いろいろ考えなくても、常にその商品にお金を預けておけばよいはずですが。しかし残念ながら、一つの金融商品が3つの性質を同時に併せ持つことはありません。次のページで詳しく解説しますが、「絶対安全でお金が何倍にもなる商品」はありません。

運用を始めるときの 注意点

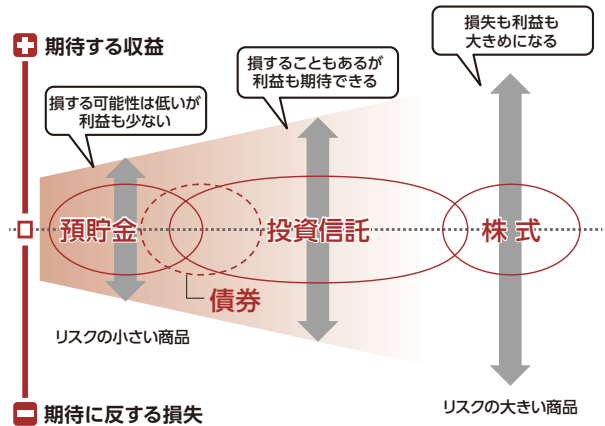
お金の色分けが済んで、相性のよい金融商品もわかったら、運用の注意点を押さえておきましょう。特に収益性資金で投資を始める場合の5つのポイントは次のとおりです。

① リスクとリターンの関係を知る

「リスク」イコール「危険」と思っている人が多いかもしれませんが、資産運用のリスクは、値動きの振れ幅を意味します。リスクの高い金融商品は、悪い方向に振れるのと同じだけ、よい方向に振れる可能性もあるのです。逆に、リターンを追求する商品は、それだけリスクが高くなるものです。リスクとリターンは、常に表裏一体の関係にあることを知っておきましょう。

一般的に、預貯金はリスクが少なく、リターンも少ない、ローリスク・ローリターンの性質があります。これに対し株式は、高いリターンが見込める一方で損失の可能性も大きい、ハイリスク・ハイリターンの商品です。投資信託は、何に投資しているかによって、ローリ

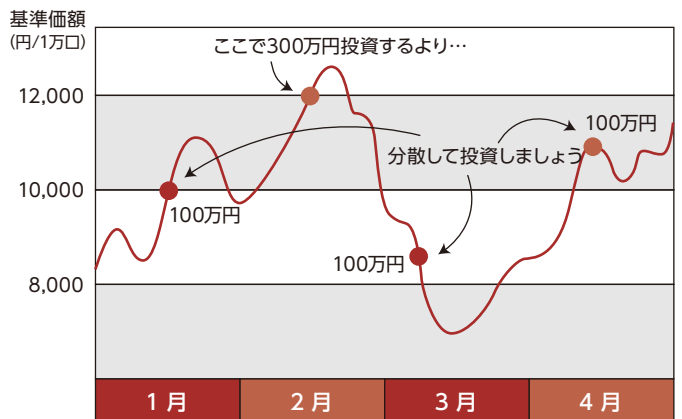
■ リスク・リターンの関係図



※上下のブレが大きいほど、リスクが大きいということです。
※あくまでも傾向を示したものです。

スク・ローリターンのものも、ハイリスク・ハイリターンのものもあり、一概にはいえません。高齢者の貯蓄を狙って、架空の運用話を持ち込む人がいます。ほとんどリスクがないのに高いリターンを狙える話を聞くと、魅力を感じるかもしれませんが、リスクとリターンの関係を理解していると、リスクが低いのにリ

■ 時期分散投資のすすめ (例: 投資信託の場合)



ターンが高いのはありえないと気が付くはずですよ。

② 自分のリスク許容度を知る

投資した金融商品の価格のブレに、どれだけ耐えられるかを、リスク許容度といえます。人の性格的な要素に左右されますが、一般的には資産や収入が多いほど、投資経験が長いほど、年齢が若いほど、



記入してみましょう。

■ 資金の目的別仕分け表

金融機関	商品名	金額	使用目的	使用時期
<記入例>〇〇銀行	スーパー定期	200万円	リフォーム資金	〇〇年

ど、リスク許容度は高くなります。60代の資産運用は現役時代と違って、運用に失敗したときに取り返せる時間も短いですし、損した分を別の収入で穴埋めすることも難しいので、たとえば投資経験が長い人でも、それほどリスク許容度は高くないことを自覚しておきましょう。

③ 投資していいお金の範囲を決めておく

21ページで色分けした、いざというとき使うお金や、減らしてはいけないお金を除いて、投資することが大前提になります。

投資を始めて日が浅い人が、損した分を取り戻そうと、どんどん投資金額を増やしてしまうのはよくある話です。反対に、利益が出始めると面白くなって、さらに投資金額を増やしてしまう場合もあります。エスカレートして、気が付けば、安全性重視のお金まで収益性を狙う商品に回っていた、ということがないように、投資していいお金の範囲はここまで、と最初からはっきり決めておくようにしましょう。

④ 集中投資をしない

投資に関する有名な格言で、「卵を一

つのかごに盛るな」というものがあります。複数の卵を一つのかごに入れて運んでいるとき、誤ってかごを落とってしまうと、すべての卵が割れてしまうかもしれません。しかし、最初から卵を複数のかごに分けて運べば、一つを落としてしまっても、ほかのかごの卵には被害が及ばないでしょう。

一つの金融商品に集中投資せずに、複数の金融商品にお金を分散させて運用すれば、大きな損害を免れるという教訓を伝えているのです。

⑤ 買う時期・売る時期を分散させる

分散させておくことよいのは、商品だけではありません。売買のタイミングも分散させるのがおすすめです。

値動きのある商品の価格が、今後上がるのか下がるのかを、正確に予想するのはプロでも困難なことです。ですから、一時にまとめて買わず、何回かに分けて買きましょう。売るときも同様に何回かに分けて徐々に売るのがおすすめです。そうすることで、高値づかみを防ぐこともできますし、底値で手放すことも避けられるのです。